

農業委員会だより

# なんたん

No. **58**

令和 7 年 10 月号

黄金の稲穂、収穫真っ盛り！

農業委員会のうごき.....	2~3
まちかど通信.....	4
地域農業を支える.....	5
農業者年金特集.....	6
委員紹介 農業大学校募集案内 .....	7
なんたんあっちこっち 他 .....	8

発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067 ■E-mail co-nougyo@city.nantan.lg.jp

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/gove/145/index.html>





# 農業委員会のうごき

## 農業者等との意見交換会

7月23日、農業者等（7名参加）と農業委員会との意見交換会を実施しました。

オブザーバーとして、市農林商工部・京都府農業会議現地推進役に出席いただき、参加者から自己紹介のあと、テーマの一つである「鳥獣被害への対応について」、農山村振興課担当者から駆除と防除の現状の説明を受けました。その後、「将来の地域農業について」「農業委員会や南丹市への意見」についてをテーマとして、意見交換を行いました。

参加した農業者・農事（家）組合長からは、①毎年シカ・イノシシが増えてきているので、猟友会に駆除をお願いしたい、②防除柵の



▲発言される農事（家）組合長



### 令和6年度有害鳥獣駆除数

南丹市猟友会による捕獲数		JA京都中央会 捕獲数	
シカ	1,229頭	シカ	54頭
イノシシ	102頭	イノシシ	6頭
サル	9頭	市民貸出駆捕獲 捕獲数	
アライグマ	74頭	アライグマ	130頭
タヌキ	33頭		
クマ	17頭		

銃猟6期・わな4期、鳥獣被害対策実施隊による緊急出動対応など



点検管理の取組が課題である、③将来の地域農業のあり方を示してほしい、④地域で法人組織は立ち上げたがこれ以上増やすことができない、⑤「地域計画」は策定されたが農地所有者の関心が薄れているなどの声が出されました。

意見に対してオブザーバーから、市の対策方針や参考事例なども示され、有意義な意見交換会となりました。

この意見交換会に出された意見を参考に、10月30日に南丹市長あてに「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を提出します。

（取材：平野 清久 委員）

## 南丹・農地なんでも相談会報告・次回予告

8月8日「南丹・農地なんでも相談会」が市内4か所で開催され、各地域の農業委員・農地利用最適化推進委員が相談に応じました。

農業を始めた、農地を探している、耕作が難しくなってきたので農地を管理してほしいなどの相談がありました。すぐ解決できない問題には、相談会後も継続して相談にのり、問題解決に向けて相談者と一緒に取り組みました。次回は令和8年2月27日（金）午前9時30分から南丹市役所と各支所で開催します。

農地を売りたい・貸したい・増

（取材：川勝 芳明 委員）



▲▼相談を受ける委員



**南丹・農地なんでも相談会**

相談無料 予約不要

開催日：令和7年 8月8日（金）  
令和8年 2月27日（金）

時間：9:30～11:30（開場・受付9:15）

会場：南丹市役所 3号庁舎 2F 第5会議室  
八木支所 2F 会議室  
日吉支所 3F 第1会議室  
美山支所 1F 小会議室

主催：南丹市農業委員会  
共催：南丹市農業委員会事務局 TEL: 0771-68-0047

南丹市農業委員会HP  
南丹・農地なんでも相談会お知らせページへ→



## 管内視察研修を終えて (福井県小浜市農業委員会)

### 小浜市の地域計画の現状

8月29日に小浜市農業委員会を訪問し、地域計画の現状や先進事例のある農地集積化の取り組みを視察しました。

小浜市の農業就業人口は高齢化が進み65歳以上の割合が80%を超え、遊休農地は耕作面積の約6%を占めています。このような現状において、対象集落数56集落を集約し、15区域での地域計画が実施されているとのこと。

### 宮川区の事例 大規模農業への転換により省力化・生産拡大へ

小浜市宮川区で平成4年度に「農業を考える会」が発足され、各地域で生産組合が設立されました。その後、大規模農業を目指すため生産組合を合併し「株式会社 若狭の恵」を設立、平成28年度には農業用施設の維持管理・農村環境の保全を目的とした「一般社団法人 宮川グリーンネットワーク」が設立されました。

同時に農地集約と基盤整備事業に着手し、令和4年度には集約率80%超となりました。広域営農組織

を設立したことで、農業機械の効率化と水管理の省力化が図れるとともに、地域ブランド特別栽培米などを生産することで、ふるさと納税返礼品として商品化、生産拡大に繋がるなどの成果があったと説明を受けました。

### 危機感への対応と新たな課題

一般社団法人設立の経緯としては、現状への危機感として、高齢化により農地を守ることが難しくなってきたことや、米価の低迷による農業従事者の減少などの課題があったことです。その後、話し合いを繰り返し法人の設立により農地の集約化が実現したが、集団化によって完全離農者が数多く発生するなど、土地所有者との関係づくりや離農



▲小浜市農業委員会による事例説明に聞き入る、当委員会の研修参加者。豊富な事例に感嘆。



▲福岡県南西部、旧若狭国の市。鯖街道の始点としても有名。京都との歴史・文化的なつながりが強い。

農家の働く場の確保など新たな課題が生まれました。また集団営農の広域化への対応として「広域農業法人(株)若狭の恵」「(二社) 宮川グリーンネットワーク」の2つの法人と小浜宮川土地改良区により体制を整備されていると説明を受けました。

その他、数多くの事例をご紹介いただきました。特に宮川地区が長年かけて取り組まれた基盤整備、農地集約、法人の設立、生産販売機能の強化、農業振興などの取り組み内容に感銘を受けました。質疑応答では当会委員より、集積化した農地所有者への補償内容などの質問がありました。今後の農地集約化を検討するうえで大変参考になる視察研修でした。

(取材：中井剛 委員)



## 全国農業新聞を購読しませんか。

農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。  
農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。  
発行日/金曜日発行(月4回) 発行所/全国農業会議所  
購読料/月額700円(税込)

購読の申込は農業委員会事務局まで 電話 0771-68-0067



地元で活躍されている方や農業に関する取り組み、  
また、日々の生活に密着したまち情報をお伝えします！

# まちかど通信

## ～自然の恵み～畑郷家 (日吉町畑郷)

### 心をつなぐ「レンチン食堂」

日吉町畑郷に「自然の恵み畑郷家」というお店があります。「女性が元気になる店」をキャッチフレーズに、「人の幸せを願い、地元に貢献したい」井尻和さんの思い入れで6年前にオープンされました。あつたらしいなと思うことは、すぐに形にされる地域貢献のお店です。地域の方が作られた自然素材のバッグや財布、手作りボールペンなどの雑貨、野菜、ふるさと納税にも採用されている品の販売、糠づけ教室、独自の農法教室、ゆずジャム教室やよろず相談受付などをされています。



畑郷家店前にて井尻和さん（右）



畑郷家内ランチ食堂



販売中の雑貨

お店の奥にある「レンチン食堂」では、冷蔵庫から取り出した冷凍食品を自由にレンジで温めて食べることができセルフ食堂となっています。井尻さんは、「高齢化が進み、外食を楽しむにくい地域だからこそ需要がある」と語ります。レンジでチンのネーミングは家庭の温かみを感じられ、テーブルは家で食べているようなくつろぎを与えてくれ、地域の憩いの場となっています。

店舗営業日 土・日

店舗営業時間 9時～17時

農薬を使わない野菜をつくり、ネット販売されるなど、多彩なビジネスを展開されています。

（取材：久世 善春・田鶴

昌子・湯浅 照夫 委員）

## 田歌の祇園さん (美山町田歌)

### 八坂神社での例祭と神楽の奉納

7月14日、美山町田歌集落では八坂神社の例祭があり神楽が奉納されました。三百年以上続いているという祭りで、疫病退散、子孫繁栄、豊作を祈願します。

行列が八坂神社までを練り歩く



面割竹鬼  
若割竹鬼  
一般若割竹鬼  
（やせ）

奉納神楽は笛に合わせてひよつとこ・おかめ・爺・奴（やつこ）などが太鼓を打ち鳴らします。



若者扮する白塗りふんどし姿の奴



樽負い爺（奥）と奴（手前）

現在では三十戸足らずになつてしまった過疎高齢化集落での祭りの存続は厳しいもので、危機的状況を何とかIターンの人たちのおかげで支えている状況です。

しかし、この祭りのおかげで集落の結束力は高く、Iターンの人たちも水田の耕作を担い、耕作放棄地は皆無の状況です。

お多福（左）とひよつとこ（右）



地名の「田歌」のとおり水田と農村文化がこれからも引き継がれることを願います。

（取材：野口 則彰 委員）

# 地域農業を支える あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する  
団体・個人を紹介します。

## 農業生産法人

### こと美山株式会社 (美山町)

美山町大野に本社がある、「こと美山株式会社」を紹介します。

【設立】2016年10月

【経営理念】農業生産法人

として人・自然に感謝し、心豊かに社会貢献します。

【生産品目】水稲(生産米、

業務用加工米、

飼料米) そば、

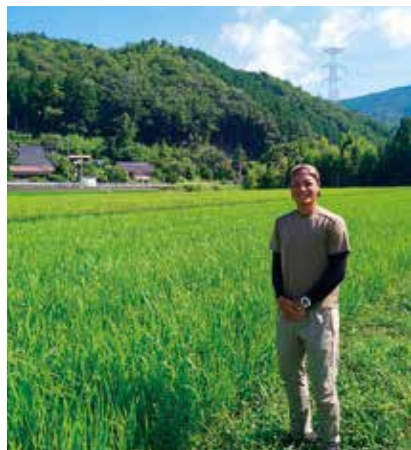
山椒 他

【従業員】役員2名 社員

4名 パート従業

員3名

社員の皆さんの勤務形態は変形労働時間制で、繁忙期には週五日半の就労、冬季等の閑散期には多くの休



▲お話を聞いた役員の加茂倫也さん(28)



▲こと美山ライスセンター

日をあたえられています。年間10日の有給休暇が確保されており、年約100日の休日が保障されています。

米作りに関する主な業務は米の生産・販売、防除業務(カメムシ駆除、いもち病対策)、米の乾燥調整業務、水稲苗の販売などです。

お話を聞いた加茂倫也さんによると、美山で農業に携わってまず感じられたことは、米作りに必要な水の確保のための水路の荒れ、畦の崩れ、耕作放棄地の増加など多くの課題が山積しているということです。

米の生産に関しては、中山間地域ではこれまでほと



▲倉庫内に大きな籾乾燥機が立ち並ぶ様子は壮観

んど赤字続きであったが、今年からようやく採算のとれる米作りになるかもしれないと、会社として期待をされています。

この高温続きの夏では、暑さと水不足に強い品種を中心に作っておられ、少ない水で株張りがよく倒伏しにくい稲が育っているとのこと。

水稲以外にも、今後は「そば」「山椒」の生産にも一層力を入れ、経営規模の拡大も考え、そして何より疲弊しつつある美山の農業を支えるために尽力していきたいと力強く語っておられ

ました。

「これまで地域を支えてこられた高齢者の方々に敬意を払いつつ、もし維持が困難な農地があれば『こと美山』に声を掛けていただきたい」ともおっしゃっており、この言葉は美山の農業に光明をもたらすものと深く感銘を受けました。今後も若さと情熱をもってお仕事に邁進されることを心からお願いする次第です。

なお、インスタグラムで農業の楽しさを中心に配信をされていますので、是非ご覧いただくことをお勧めします。

(取材：平井隆 委員)



▶ 大型機械を使った田植え

こと美山公式Instagram▶  
作業風景や田んぼの様子  
随時更新中！新米情報も！





# 人生100年、先を見据えて 農業者年金で税制を味方に!

農業者年金とは、国民年金の基礎年金に上乗せされる、2階建て部分にあたる年金制度です。一般の会社員が加入する厚生年金に相当します。老後生活の安定や農業者の確保を目的にした、農業者にとってメリットが多い制度です。下記の3つの加入要件を満たせば、誰でも加入可能です。

加入要件

国民年金  
第1号被保険者  
(免除者は除く)

農作業日数  
年間60日以上

60歳未満の方  
※国民年金任意加入  
被保険者は65歳まで

くわしくは  
近畿府県農業会議  
農業者年金  
キャンペーンサイトへ  
<https://www.nounen.go.jp/cp/>



「のうねんくん」

京都府農業会議 農業者年金イメージキャラクター

## 農業者年金へ加入しませんか?

加入メリット

- ①少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型の年金です。運用利率は平均年率2.89%さらに運用益は非課税!もし年間運用益がマイナスとなった場合は資金を補填する制度があります。
- ②保険料は2~6.7万円の範囲で自由に決められ、しかも事務手数料なし!
- ③税制面で大きな優遇!掛け金の全額が社会保険料として控除されます。支払った保険料の15~30%程度税金が安くなり、手取り額が増えます。子や配偶者の掛け金を代わって支払うこともできます。
- ④終身年金です。80歳前になくなった場合は遺族へ死亡一時金あり。家族も安心です。

農年 令奈さん(23)

- ☒ 国民年金第1号
- ☒ 農作業70日以上
- ☒ 60歳未満

令子さんの娘、実家暮らしの大学院生。週末に母令子さんの自家菜園を手伝うのが楽しみ。祖父母の農作業も手伝い、ちゃっかりお小遣いをもらっているしっかり者。

加入  
できる

学生や、農業で  
収入の無い人でも  
加入できるよ!

農業者なら  
幅広く加入  
いただけます!  
まずは相談を!

基礎年金のみ加入の方に  
おすすめ!節税しながら  
将来に備える!

農年 令子さん(50)

- ☒ 国民年金第1号
- ☒ 農作業100日以上
- ☒ 60歳未満

週3日勤務のパート事務員。建設業を営む自営業の夫、大学院生の娘と3人暮らし。一人暮らしの大学生の息子が心配。夫の実家の農作業を手伝いつつ、自家菜園にも力を入れている。

加入  
できる

本業が別に  
ある方も加入  
可能なのね!

農年 和翔さん(20)

- ☒ 国民年金第1号
- ☒ 農作業60日以上
- ☒ 60歳未満

令子さんの息子、一人暮らしの大学生。姉に弱い。長期休みに地元の営農組合で草刈りなどのアルバイトをしている。

加入  
できる

農作業といっても  
1日あたりの時間や  
内容は決まってい  
ないんだ!

子供の掛け金を親が払うと節税に!

例えば、掛金月額2万円を子2人分払うと48万円が親の所得から控除されます!年間最大80万4千円/1人控除できます。生計を同一とする家族が対象。



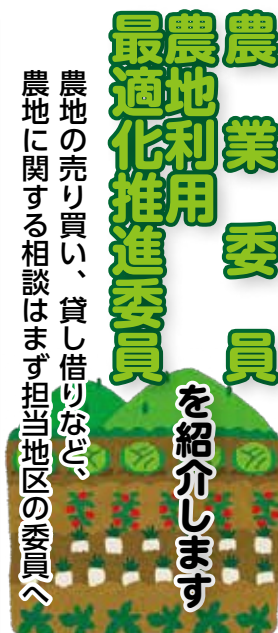


**農業委員**  
**三崎 正子さん**  
担当：美山町平屋地区

水稲を中心とした農業を2人で営んでもうすぐ20年になります。夫は元会社員、私は農家の生まれですが、着物の仕立てを10年程経て就農しました。

はじめの数年はつまずいてばかり、手探りの農業でした。それでもやってこられたのは地域の方々のご支援があったからと大変感謝しています。

近ごろ、新規就農者の方が来られたら、私たちにも何かできることがあるか？と考えるようになりました。地域の農業のために自分ができることを精一杯取り組んでいきたいと考えています。至らないことも多いと思いますが、よろしく願います。



地区別担当委員は農業委員会だより「なんたん」54号に掲載しています。下記QRコードからダウンロードできます！



就任させていただき1年余り、「農地を守り、農業人材を育み、農業を支える！」にどれだけ貢献したか？の問いには、自己評価66点です。

田舎の兼業農家の長男として生まれ、もなく田圃と山が付いてきて、面倒を見なくてはならないことになっていました。「就職先は、農業協同組合の職員、町役場の職員、学校の教員のどれかに？」と、母親に真顔で言われた記憶があります。結果として教員になり、生徒の成長を見届けてきました。

定年退職後は水稲栽培を中心に小規模農業に取り組んでいます。少量多品目の野菜も栽培し、自家で食べきれないものを道の駅「新光悦村」に出荷しています。また、地域計画策定委員、中山間地域等直接支払交付金の運営委員など、地域と農業に関わりの深い生活を続けています。



**農地利用最適化推進委員**  
**中井 順市さん**  
担当：園部町元桐地区

## 京都府立農業大学校令和8年度の学生を募集します

京都府立農業大学校では、豊かな自然に囲まれた環境の中で、農業の担い手を養成しています。収益性の高い京野菜の生産を学び、農業に従事する意欲ある学生を募集しています。

- ◆募集人数 20人程度（推薦入学を含む）
- ◆出願資格 学校教育法に規定する高等学校若しくは中等教育学校の卒業者（令和8年3月卒業見込み）又は同等の学力がある者で令和8年4月1日時点で40歳未満の者
- ◆試験日程
 

一般入学試験（前期）	受付期間	令和7年12月 1日（月）～12月12日（金）
	試験日	令和8年 1月 9日（金）
一般入学試験（後期）	受付期間	令和8年 1月19日（月）～ 1月30日（金）
	試験日	令和8年 2月13日（金）

問い合わせ先 京都府立農業大学校（0773-48-0321）  
京都府公式ウェブサイト京都府立農業大学校ページURL <http://www.pref.kyoto.jp/kyonodai/>



# なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。  
南丹市のあちらこちらで、地域ならではの魅力的な取り組みがされています。  
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。

## 村おこしの山野草苑



◀ 大きな木製の看板が目印



日吉町にある「佐々江あたご山野草苑」の「ささゆり開花祭」(6月中旬開催)は600人の来苑者で賑わいました。山野草苑は8年前、佐々江在住の久世和義さん、土地を提供した久世耕司さんの二人でオープン。代表の和義さんは造園業の経験を生かし、山道を切り開き苑内の木々を建材にして展望台や東屋、野外ステージなどを手作りし、ササユリや山アジサイなど約300種の山野草を植え、開放されています。苑内のカフェ「云々」(うんぬん)の入り口付近の「ギボウシ」や「ハッカクレン」の植物にも心が癒されます。

和義さんは「佐々江は車が通過するだけの土地、何かできないか考えた。」「将来は公園にして、年間10万人の入場者を目指したい。」と話されています。

「ささゆり開花祭」は地元特産の朴葉飯やチマキなどの販売、お店の出店やステージ演奏があり、毎年大勢の来客で賑わいます。駐車場係、受付、案内係は地元の方の協力を受け、地域の楽しみの行事になっています。



▲代表の久世和義さん



ギボウシ

ハッカクレン

苑内のカフェ「云々」▼



開苑時間 10時～17時  
(取材：久世 善春・田鶴 昌子・湯浅 照夫 委員)

## 精米工場が竣工しました



令和7年8月20日に、園部町農業公社の精米工場の竣工式が行われました。2007年から利用してきた設備を更新し精米機や最新鋭の色彩選別機が導入され、より高度な品質管理につながる施設に一新されました。あわせて工場内は密閉空間とし、動物の侵入を防いで衛生的な環境を保つ施設となりました。9月より稼働し新米が供給されています。

今年収穫された新米が消費者の皆さんにより安心・安全に提供され、米販売量の拡大と南丹市のPRにつながることを願います。

(取材：平野 清久 委員)

◀ (公財) 園部農業公社  
精米工場内。工場屋内も刷新されクリーンな作業環境に



▶ 新たに導入された、最新の業務用精米機(右)と業務用色彩選別機(左)



## 編集後記

令和7年産米の収穫が終わりました。令和の米騒動に始まり、米価の話題で連日報道されていますが、農業者にとっては実りの秋が終わりほっとしています。  
(平野 清久 委員)

## 地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。  
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

◆ 広報委員会  
野口 八木 平井 神澤 田久世 池上 鶴山 國府 小早 川勝 奥村 西村 中井 中井 平野 湯浅  
則 典 昌 善 尚 昌 博 健 芳 奧 喜 久 邦 順 清 照  
彰 均 隆 子 隆 仁 美 一 明 雄 夫 剛 市 久 夫